

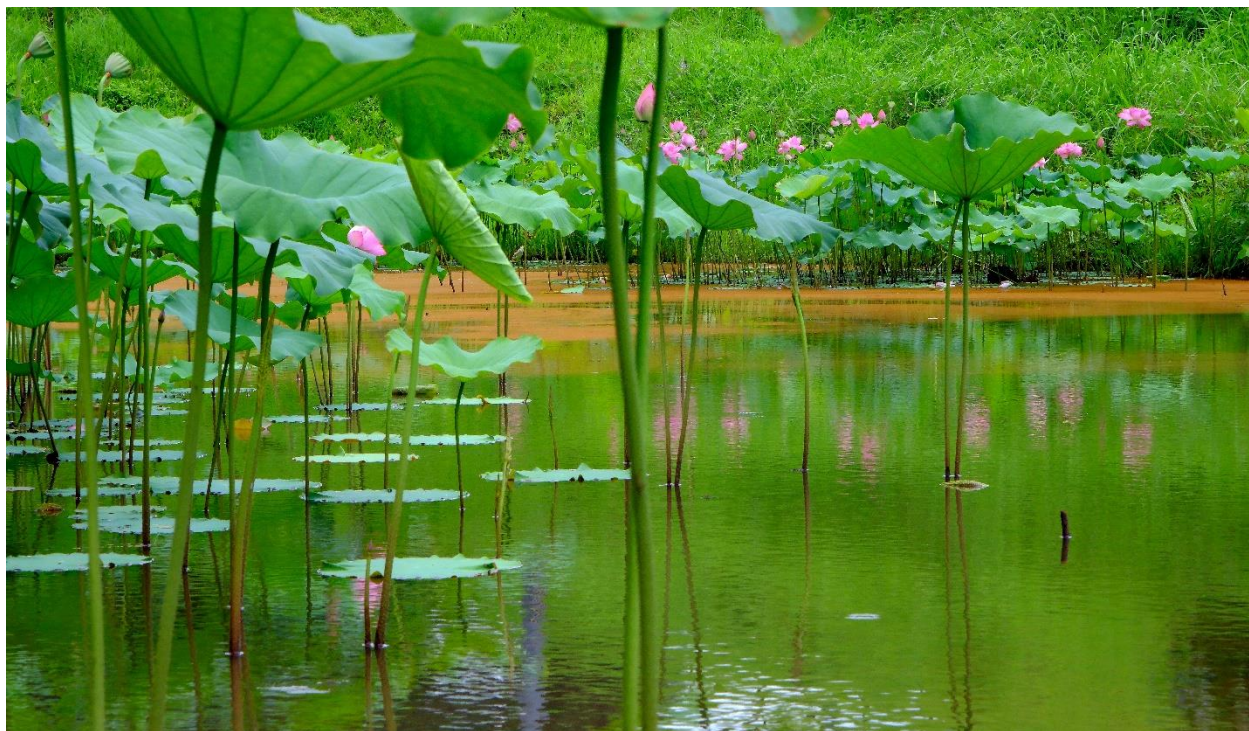
津山中央病院 連携広報誌

2026 年

7 月号

メディネット

Vol.273



ハス公園“水辺に咲く”（久米郡久米南町）

撮影 徳田名誉院長

私たちが津山慈風会は、地域の皆さんにやさしく寄り添います

Topics

ロボット支援下肝胆膵手術導入のご報告

ロボット支援下肝胆膵手術導入のご報告

津山中央病院 外科 部長
肝胆膵センター長

いとう あてね

伊藤 雅典

専門領域 消化器外科

専門医・指導医

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器外科学会消化器外科専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本肝胆膵外科学会評議員
- ・日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医
- ・FUSE (Fundamental Use of Surgical Energy)
- ・日本ロボット外科学会国内B級ライセンス

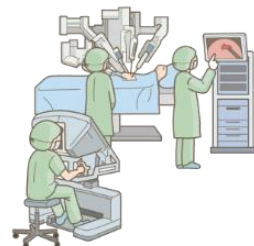


† ロボット支援下肝胆膵手術の導入

津山中央病院では本年1月にダヴィンチXを使用してロボット支援下肝部分切除、3月にロボット支援下尾側膵切除を開始しました。当院は泌尿器科、呼吸器外科、婦人科、消化管領域（胃、結腸、直腸）についてはすでにロボット支援下手術の導入を行っており、年間150例以上のロボット支援下手術を行っております。私自身も2023年より当院でロボット支援下胃切除術に携わり、昨年は半年間ですが日本トップクラスのロボット支援下肝胆膵手術件数を誇る岡山大学病院肝胆膵外科で研鑽を積まさせていただきました。これらの経験をベースにロボット手術経験の豊富な手術室スタッフの協力のもと、今回も安全に導入することができました。

† ロボット支援下膵切除について

ロボット支援下膵切除は2020年4月に保険収載となりました。膵切除は大きくわけて膵頭十二指腸切除術と尾側膵切除にわかれます。膵頭十二指腸切除術については腹腔鏡手術を含め低侵襲手術の施行に関しての施設基準が厳しく、県内でも2-3施設でしか施行できません。尾側膵切除についてはここ数年、当院では基本的に腹腔鏡での手術を原則としておりましたが、この度ロボット支援下で施行可能となりました。膵尾側切除にもいくつか種類があり、特に手技が煩雑となる脾温存尾側膵切除についてはロボット支援下での高精細3Dカメラでの拡大視野と、手ぶれ防止機能を有する多関節機能を持つ鉗子による手術手技が有用と考えられます。これまで腹腔鏡では難しかった症例でもロボットを使用することで脾温存の可能性が広がると考えます。



† ロボット支援下肝切除について

ロボット支援下肝切除の保険収載は脾臓よりも遅く 2022 年 4 月でした。腹腔鏡での手術の安全性が担保されるのに時間もかかったことから、ロボット支援下手術の保険収載も遅くなりましたが現在は全国的に増えてきています。

肝切除術はベースの肝臓の状態と切除部位、切除範囲で難易度がかなり変わる術式です。このため基本的には難易度の低い術式からの導入となり、当院では現在部分切除のみの適応となっております（亜区域切除や区域切除、葉切除などで可能なものは腹腔鏡での切除術を継続しております）。また部分切除でもまっすぐ肝臓を切離する比較的簡単な症例から、深く掘り込むような難しい切除が必要な症例もあります。ロボットでは多関節機能をもつ鉗子を術者が自由自在に扱うことで深く掘り込むような部分切除も腹腔鏡に比べて安全かつ容易に可能となっています。

† 最後に…

津山中央病院外科では近年腹腔鏡手術を積極的に導入し、低侵襲手術の充実を図ってまいりました。近年はこれらがロボット支援下手術へ移行してきており、全国的にも同様の流れが進んでいます。また基幹病院集約化においてもロボット手術実績も一つの基準となっております。肝胆膵領域については高難度手術も多く、安全性を担保したうえで県北の皆様に質の高い低侵襲手術を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



ダヴィンチ手術術中写真



手術室スタッフ

セミナー・講演会情報

●CC セミナー（Web 併用のハイブリッド形式）※日本医師会生涯教育講座申請中（1.0 単位：CC44）

講演 『 2025 年 JRC 心停止蘇生ガイドラインについて 』

- ・ 講師 救急集中治療科 救急救命センター長 前山 博輝 先生
- ・ 日時 2026 年 7 月 14 日（火）19：00～20：00
- ・ 場所 津山中央病院 研修センター2F 講義室

第 62 回 岡山ストーマリハビリテーション研究会開催のご報告

2026 年 6 月 13 日（土）、津山中央病院慈風会記念ホールにおいて、第 62 回岡山ストーマリハビリテーション研究会が開催されました。今回は「持続可能なストーマリハビリテーションを目指して」をテーマに、教育講演、一般演題発表、シンポジウムが行われ、ストーマケアに関する知識や実践について活発な議論が交わされました。

当日は医師、看護師など 75 名が参加し、多職種による情報共有と交流を深める有意義な機会となりました。今後も患者さんの QOL 向上を目指し、より良いストーマケアの実践につなげてまいります。

